

創刊に際して

—新しい学問領域の構築のために—



作新学院大学 人間文化学部長 諸 富 隆

2003年2月24日

人間文化学部は、栃木県では最初の本格的な人文科学系学部として、昨年4月に創設されました。私達は、人間文化学部が21世紀において最も求められている学部であると考えています。

20世紀は、19世紀までとは質的に異なる科学技術の目覚ましい発達を遂げた時代でした。それらの科学技術は人間に対する自然の制約からの解放を一段と進め、人間を病苦や飢えから救い、生活に一定の物質的豊かさと利便性をもたらしました。また、社会における人間の自由に対する科学的認識の深まりとその実現への正当な要求は、民主主義と基本的人権の拡大を著しく促しました。このように、20世紀は人間の発達にとって肯定的な成果を数多く産み出しました。

しかしその一方で、核兵器を頂点とする大量殺戮破壊兵器による戦争の危機、無秩序な自然開発とそれに伴う深刻な自然破壊、グローバリゼーションの進行に伴う多国籍企業への富の集中とその恩恵を受けない国々における貧困の拡大、人間関係の質的变化をも予示するような人間に対する暴力や、教育をめぐる諸困難等、20世紀は私達に様々な課題を残しました。私達は、21世紀においてなおこの地球上に存在し続けるためには、これらの課題を一刻も早く解決しなければなりません。私達は、人間文化学部がこれらの課題を解決していく場合の基底にある人間の解明を明確に意識して作られた学部であると思っています。

人間文化学部は、文化学、心理学、社会学の3つの学問領域によって構成されています。私達は、この3つの学問領域から人間と社会・文化との関係を追求し、それらの研究成果を互いの討論を通して総合する積極的営みによって、新しい学問領域（学際領域としての人間文化学）が構築され、展開されることを願っています。

さらに私達は、これらの研究成果を手がかりとして、21世紀における人間のあり方とその環境としての社会・文化の望ましいあり方がいかなるものであるのかについて、自然科学や社会科学の諸知見をも視野に入れながら、実践可能な形で解を提示することができればと考えています。

本紀要の諸論文をお読みになった皆様から、忌憚のない生産的な批判が寄せられることを心から期待しております。